

東海の自動車部品メーカー・宮本さん 畳店と開発

イン性だけでなく、断熱性などの機能面が高いのが特徴。先月25日から一般向けのオーダーメイドを始めた。
(高橋貴仁)

東海市の自動車部品メーカーと名古屋市
の畳店がタッグを組んで、ふすま障子や内窓障子の建具ブランド「悠宮建具」を立ち上げた。和モダンなデザ

タッグを組んだのは、自動車部品メーカーのミヤゼット（東海市名和町）の3代目宮本了輔さん(37)と、畳やふすまなどの建具を扱う伊藤畳商店（名古屋市南区）の3代目伊藤貴大さん(31)。もともと自宅が近いこともあり、個人的に仲が良かったという。ブランドの立ち上げは、伊藤さんが宮本さんに相談したのがきっかけ。別の業者が作るふすまの土台になる下地は、昔からデザインが変わらない旧態依然のもので、「高いデザイン性を求める顧客からの要望に応えることができない」という悩みが、伊藤さんにあったという。相談を受けた宮本さんも「部品加工だけではこの先厳しい」と考えていて、未知の分野に挑戦することに。2022年夏から開発を始めた。鉄やアルミなどの金属加工しか経験がなく、木材特有の反りやねじれなどに悪戦苦闘し

和モダン × 機能性

新時代の建具 まかせて



ながらも、1年をかけて商品化した。木製の外枠に、多彩な和紙をアクリルで挟む障子で、高い断熱性と多様なデザイン、メンテナンスが容易な点が優れているという。ブランド名は、顧客の家が末永く続くようにとの意味を込めて「悠久」と、宮本さんの「宮」の字を組み合わせた。

建具ブランド「悠宮建具」を立ち上げた宮本さんと伊藤さん＝東海市名和町で

宮本さんは「部品加工だけではなく、別の柱がほしかった。チャレンジしてみてもよかった」と振り返り、伊藤さんは「機能面に優れていて、和モダンな和室にもぴったり。古くなっているふすまがある方や、おしゃれにこだわる方に使ってもらえれば」と話している。オーダーメイドは「悠宮建具」と検索してヒットするホームページから。